

仏像研修鑑賞：横浜市歴史博物館訪問

— 横浜の仏像：しられざるみほとけ(特別展) —

実施日	2021年3月9日(火) 晴	参加者	7名	文責	まちだ史考会文化財調査 G
概要	横浜の地は、武蔵国と相模国が境を接する 処にあり、奈良時代、八世紀後半頃に仏教文化がもたらされました。以来、各時代にわたり数多くの寺院が建立され、“みほとけ”に対する祈りが捧げられ、仏教の信仰が根付いてきました。 本展は横浜地域に伝わる仏像を総合的・体系的に紹介するはじめての展覧会です。半世紀におよぶ文化財調査の成果にもとづき、平安・鎌倉時代の仏像を中心に、新発見・初公開の“しられざるみほとけたち”を紹介し、横浜の仏教文化の実像にせまろうとするものです。				
コース	JR 町田駅 9 時 35 分－JR 中山 9.48-10.00－グリーンライン線－センター北 10.09 着。 横浜市歴史博物館訪問後、希望者で茅ヶ崎杉山神社および茅ヶ崎城跡を探訪する。 注意： コロナ対応：三密は避けて、ゆっくり、鑑賞致します。体調管理はご留意下さい。 熱のある方、気分が優れない方、興味が湧かない方は、無理せず遠慮して下さい。				
見 所					
時代を超え守り伝えられてきた横浜の仏像は、地域色豊かな独特の個性を有する像から都風の洗練された像までさまざまです。人々の信仰や美意識などの変化を反映し、時代ごとに多彩な姿をみせる横浜の仏像を紹介されています。 ○平安後期 南区・弘明寺十一面観音菩薩立像 鉦彫り：水平方向の丸ノミ痕を意図的に残す刻法で地方仏の代表である。重要文化財。 注：神奈川県下では日向薬師の三尊像が良く知られている。 ○11 世紀前半の都で仏師定朝(?~1057)により日本仏像の典型的な様式(和様)が完成し、量産に有利な寄木造の新技法の木彫が確立し、各地に大きな影響を与え、横浜地域も例外ではなかった。金沢区龍華寺阿弥陀如来像・寶樹院阿弥陀三尊像、栄区證菩提寺や磯子区真照寺の阿弥陀三尊などがある。 ○鎌倉時代以降は、金沢区龍華寺「善光寺式阿弥陀三尊像」や青葉区真福寺「清涼寺式釈迦如来立像」など三国伝来の由緒仏の模像が造られるようになった。 ○鎌倉中期以後東国を本拠とした運慶派仏師が定着し、続いて善派仏師の進出。14 世紀には京都院派仏師の参入がある。また、鎌倉土着の仏師による鎌倉特有の仏像として金沢区三宝寺の「法衣垂下像」などがもたらされている。					



釈迦清涼寺式 (真福寺 鎌倉期 国重文)



十一面観音菩薩立像（弘明寺 平安期） 清涼式釈迦立像（真福寺 鎌倉期） 薬師如来（證菩提寺 平安期）



阿弥陀仏（證菩提寺 平安期 国重文）



伝阿弥陀仏（松陰寺 飛鳥後期 ）



横浜の仏像展



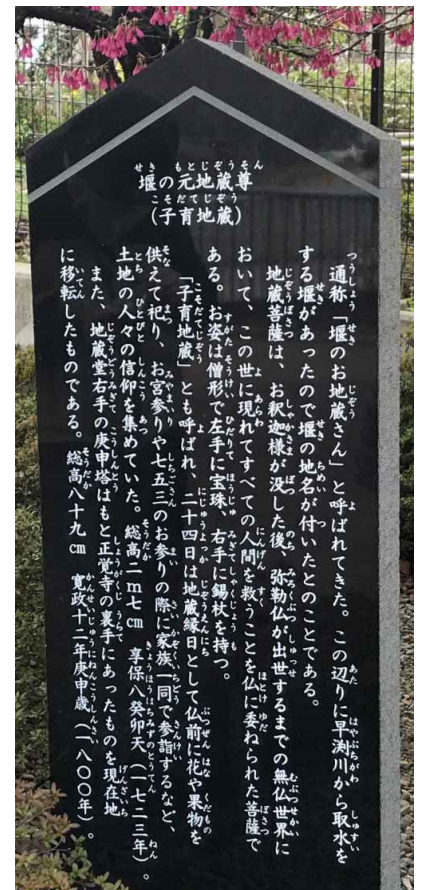
茅ヶ崎杉山神社（鳥居 拝殿など）



堰のお地蔵さん(茅ヶ崎)



街角の庚申塔（茅ヶ崎）



近くの説明板